

ホンジュラス（2023 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ホンジュラス日本国大使館](#)

- 2021 年度日本語教育機関調査結果
- 日本語教育の実施状況
- 教育制度と外国語教育
- 学習環境
- 教師
- 教師会
- 日本語教師派遣情報
- 評価・試験
- 日本語教育略史

1.2021 年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5	20	355	21	5.9%	21	5.9%	27	7.6%	286	80.6%

（注）2021 年度日本語教育機関調査は、2021 年 9 月～2022 年 6 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

ホンジュラスにおける日本語教育は、従来から主に JICA 海外協力隊員によって行われ、1970 年代後半から約 20 年間、ホンジュラス自治大学テグシガルパ校に JICA 海外協力隊員日本語教師が派遣されてきたが、90 年代後半に日本語教師の派遣は打ち切られた。

その後、各方面からの日本語学習の機会を求める声の高まりを踏まえて、日本大使館、JICA 事務所及び元国費留学生などが中心になり日本語教育の充実に向けた検討が進められ、2001 年、ホンジュラス国立教育大学テグシガルパ校の教室を会場として、2004 年には、ホンジュラス国立自治大学サンペドロスーラ校及び 2008 年には同教育大学サンペドロスーラ校にて、JICA 海外協力隊による日本語教室が開設された。

しかし、現地治安情勢の悪化により、2013 年の危険レベルの引き上げに伴い、それまで上記 2 都市で日本語

の授業を行っていた JICA 海外協力隊が一斉に撤退したことにより、現在は元国費留学生などの現地人が日本語授業を行っているが、今後の持続性の観点から、現地人講師の育成が重要な課題となっている。

背景

ホンジュラスは中南米での最貧国のひとつであるが、戦後の奇跡的復興から世界第二位の経済大国への発展を遂げた日本人への憧憬の念が共通意識としてあり、日本に学びたいという関心が従来から存在している。これにアニメ、ポップカルチャーなどを通じた一般国民への日本文化の浸透が加わり、日本及び日本文化への関心も多様化している。

特徴

日本語講座の学習者数は年々増加しており、日本語への関心・興味の高まりが見受けられる。学習者の多くは、日本の先進技術、戦後の高度成長、高い生活水準などへのあこがれや、伝統文化、近代文化、特にポップカルチャー（アニメ、マンガなど）への興味から日本語を学び始めている。学習者は、高校生から社会人まで幅広い層にわたるが、特に大学生が多い。

最新動向

国費留学を念頭において日本語学習を行っている者が漸増しており、ここ数年間のホンジュラスの国費留学生選考試験には多くの日本語学習者が受験している。

また、2015 年以降日本語弁論大会が実施されており（在ホンジュラス日本大使館、JICA ホンジュラス事務所、ホンジュラス帰国留学生の会（AHBEJA）の共催及び JF の助成）、日本語学習のレベルアップ及び学習意欲喚起の役割を果たしている。なお、2020 年は新型コロナウイルス感染拡大により同弁論大会は中止され、多くの日本語教育機関も一時閉講を余儀なくされたが、2020 年 9 月時点で全ての機関がオンラインでの授業を開始した。今まで地理的事情から、参加出来なかった地方の学生なども取り込み、生徒数は増加傾向にある。2024 年 2 月時点では、新型コロナウイルスの感染も落ち着き、活発な活動が増えている。

今後は、持続性の観点から、現地人日本語講師の育成を中心としつつ、全体的なレベルアップが求められる。

教育段階別の状況

初等教育

《エデンスクール》

帰国留学生がスペイン語、英語及び日本語のトリリンガルスクールとして 2010 年にサンペドロスーラにて開。

2024 年 2 月時点では、ホンジュラス人講師が、9 年生(中学 3 年生)までの生徒約 40 名を対象に、日本語授業を週に 4 時間行っている。言語科目として英語と日本語がカリキュラムに組み込まれている。

《ハッピーデイズフリースクール》

2018 年に長期研修参加者がサンペドロスーラにて開講。小学生から高校生が対象となっており、小学 1 年生から 6 年生までは必修科目で、中学生・高校生は選択外国語科目である。

2023 年 10 月時点で小学 1 年生から 6 年生約 425 人には対しては週に 45 分、中高生約 25 人には対しては週に 1 時間の日本語授業を行っている。

《セイントエンジェルスバイリンガル学校》

2023 年に元精神文化院講師がサンペドロスーラにて開講。小学 1 年生に対しては週に 1 時間、小学 2 年生から高校 3 年生に対しては必修科目として週に 2 時間の日本語授業を行っている。2024 年 2 月時点で全体で約 75 名の生徒が在籍している。

中等教育

《エデンスクール》

帰国留学生がスペイン語、英語及び日本語のトリリンガルスクールとして 2010 年にサンペドロスーラにて開講。2024 年 2 月時点では、ホンジュラス人講師が、9 年生(中学 3 年生)までの生徒約 40 名を対象に、日本語授業を週に 4 時間行っている。言語科目として英語と日本語がカリキュラムに組み込まれている。

《ハッピーデイズフリーダムハイスクール》

2018 年に長期研修参加者がサンペドロスーラにて開講。小学生から高校生が対象となっており、小学 1 年生から 6 年生までは必修科目で、中学生・高校生は選択外国語科目である。

2023 年 10 月時点で小学 1 年生から 6 年生約 425 人には対しては週に 45 分、中高生約 25 人には対しては週に 1 時間の日本語授業を行っている。

《セイントエンジェルスバイリンガル学校》

2023 年に元精神文化院講師がサンペドロスーラにて開講。小学 1 年生に対しては週に 1 時間、小学 2 年生から高校 3 年生に対しては必修科目として週に 2 時間の日本語授業を行っている。2024 年 2 月時点で全体で約 75 名の生徒が在籍している。

高等教育

《ホンジュラス国立自治大学（UNAH） テグシガルパ校》

同大学外国語学部では、JICA 海外協力隊日本語教師隊員により、選択科目のひとつとして週 4 回日本語クラスが行われていた。しかし、2013 年の危険レベル 2 への引き上げに伴い、同隊員を含め首都テグシガルパからボランティアが撤退し、一時は同校の日本語クラスは閉鎖を余儀なくされた。2014 年、元国費留学生（ホンジュラス人）を講師として迎え、国立自治大学内で日本語教室を再開講。

パンデミック中は未開講であったものの、2023 年 8 月には言語学部生を対象とした第二外国語科目として新たに開講され、履修が可能である。また 2024 年 2 月時点で、約 30 名の生徒に対して週 8 時間の授業を行っている。

《フランシスコ・モラサン国立教育大学（UPNFM） 言語センター》

2016 年に元国費留学生により開講。同大学は、当地各地にキャンパスがあるが、言語センターがあるのはテグシガルパとサンペドロスーラのみ。さらに日本語コースがあるのはテグシガルパのみ。

2024 年 2 月時点で、9 名の生徒を対象に週 10 時間の日本語授業を対面で行っている。

学校教育以外

テグシガルパ市、サンペドロスーラ市において一般向け日本語講座が開講されている。

《ホンジュラス帰国留学生の会（AHBEJA）》

2014 年 5 月より、ホンジュラス帰国留学生の会（AHBEJA）の運営で、元国費留学生を講師として、ホンジュラス国立自治大学内にて日本語教室が実施されている。同組織は、国内最大規模の日本語教育機関であり、ホンジュラスにおける日本語教育の中核的な役割を目的に、2015 年度に JF のさくらネットワークに登録された。

パンデミック以降、オンラインのみでコースが開講されている。2024 年 2 月時点で、約 135 名の生徒を対象に週 2 時間の日本語授業を行っている。

《在サンペドロスーラ日本名誉総領事館》

2004 年 6 月に開講しその後閉講したが、元国費留学生を講師として、2017 年 2 月より再開講された。

2024 年 2 月現在では、7 名の生徒に対してオンラインで日本語授業を行っている。対面授業再開の見通しはまだない。

《マホラ日本語日本文化センター》

精神文化院修了生及び元在サンペドロスーラ日本名誉総領事館講師だった JF 長期研修参加者が校長兼講師を務めており、2022 年に開講された。2024 年 2 月時点では、32 名の生徒に対して、レベルに応じて週 2～3 時間の日本語授業をオンラインで行っている。

《精神文化院》

2002 年にホンジュラス人講師により、開講された。

パンデミックにより 2020 年よりオンライン授業を開始していたが、本校の日本語講座は縮小傾向である。2024 年 2 月時点では、教師及び授業内容の再編成のため、日本語クラスの開講は未定となっている。

《レクシオネス フジ》（法人化していないオンライン日本語講座）

2021 年 7 月に精神文化院のコーディネーターにより開講された完全オンラインの日本語クラスである。当初は同人がひとりで日本語を教えていたが、現在は 4 名の教師がレベルごとに週に 2～3 時間の日本語授業を約 40 名に対して行っている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3 制。

初等教育が 6 年間（6～12 歳）、前期中等教育が 3 年間（13～15 歳）、後期中等教育が 3 年間（16～18 歳）。高等教育は大学 4 年間。

義務教育は、初等教育の 6 年間。

教育行政

初等、中等、高等教育が教育省の管轄下にある。

言語事情

公用語はスペイン語。

私立学校では英語、スペイン語のバイリンガル教育を行っているところが多いが、現地社会内での英語の普及は極めて限られている。また、ガリフナ語などの少数言語を第一言語とし、スペイン語を第二言語とする、先住民系民族及びアフリカ系民族が存在する。

外国語教育

公立学校では、公用語のスペイン語で授業が行われており、英語教育は前期中等教育から開始されている。

一方、バイリンガル教育を行っている私立学校においては、幼児教育から後期中等教育までバイリンガル制度が敷かれている。バイリンガル教育を行う私立学校は年々増加している。また、私立学校の一部においては、英語、スペイン語、フランス語の3か国語を授業に取り入れているところもある。

なお、高等教育の授業はスペイン語で行われている。

外国語の中での日本語の人気

ホンジュラスの外国語学習人口は英語が圧倒的に多く、第2位にフランス語、第3位にドイツ語と並び、日本語は第4位に位置する。

2008年から2009年にかけて、テグシガルパ市及びサンペドロスーラ市の複数の大学（合計7大学）において中国語講座が次々と開講されたこともあり、中国語学習者が急増した。

また、2018年からホンジュラス教育大学テグシガルパ校の言語センターに韓国人の教師が派遣されており、韓国語学習者も増えてきている。

なお、2018年から2019年にかけて、ドイツ語の授業を展開する機関の増加に比例し、ドイツ語の生徒数が急速に増えた。

一方2020年3月に入り、新型コロナウイルスの感染拡大による政府の外出禁止令に伴い、公共教育機関が一斉に閉鎖・休校となった。さらに、一部ではネイティブの教師が全員帰国するなどの例もあり、多くの外国語教育機関に影響があった。

2020年は、多くの機関がオンライン授業を開講し、対面式の授業を再開している外国語教育機関はなかった。外国語全体を見ると学習者数は減少した。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教師が作成した独自の教材及び JF から寄贈された日本語教材を使用している。

中等教育

日本語教師が作成した独自の教材及び JF から寄贈された日本語教材を使用している。

高等教育

日本語教師が作成した独自の教材及び JF から寄贈された日本語教材を使用している。

学校教育以外

日本語教師が作成した独自の教材及び JF から寄贈された日本語教材を使用している。

5.教師

資格要件

初等教育

元国費留学生が日本語教師になっている。

中等教育

元国費留学生が日本語教師になっている。

高等教育

元国費留学生が日本語教師になっている。

学校教育以外

元国費留学生が日本語教師になっている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。JICA 海外協力隊員が派遣されていた当時は、国立教育大学テグシガルパ校において JICA 海外協力隊員が現地人教師の指導にあたっていた。2016 年以降は、国際交流基金プログラムの日本語教育機関教師研修に参加し、教授法を学び、教師会にフィードバックしている（2016 年以降は、ホンジュラス国内から、おおむね毎年 1 名が採用され日本で研修を受けている）。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本人教師の雇用は確認されていない。

教師研修

中米の JICA ボランティアの日本語教師は、JF メキシコ日本文化センターがメキシコ市で開催している日本語教師短期研修会に出席している。また JF 事業により日本語教師長期研修に参加した者が、その経験を生かし、他の日本語教師に対して、年に 2 回程度セミナーを開催している。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2009 年に「中米カリブ日本語教育ネットワーク」が設立された。中米・カリブ地域の日本語教師がセミナーを開き、意見交換及び短期研修を行い、同地域における日本語教育の発展を目指している。

最新動向

2009 年に設置された「中米カリブ日本語教育ネットワーク」にホンジュラスから代表者が参加し、情報収集の上、国内の各日本語教育機関の教師へ伝達している。また、日本語弁論大会入賞者の中米カリブ地域大会への出場について、教師会での協議の上、ホンジュラス代表を選出している。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

(情報なし)

8. 評価・試験

評価・試験の種類

共通の評価基準や試験は確認されていない。

9. 日本語教育略史

2001 年

テグシガルパの UNAH の教室を会場として、JICA 海外協力隊による日本語教室開設

2002 年	サンペドロスーラ市の精神文化院において日本語講座開講
2004 年	サンペドロスーラ市の日本名誉総領事館において JICA 海外協力隊による日本語講座開講 UNAH サンペドロスーラ校にて、JICA 海外協力隊による日本語クラス開講
2008 年	UNAH サンペドロスーラ校にて、JICA 海外協力隊による日本語講座開講
2010 年	元国費留学生により、サンペドロスーラ市にエデンスクール開校
2013 年	危険レベル 2 への引き上げによりテグシガルパ市及びサンペドロスーラ市から JICA 海外協力隊撤退、日本人講師による日本語教室閉鎖
2014 年	元国費留学生（ホンジュラス人）を講師として迎え、UNAH 内で日本語教室を再開講
2016 年	UNAH テグシガルパ校言語センターにて、ホンジュラス人教師 1 名による日本語教室開講
2017 年	在サンペドロスーラ日本名誉総領事館においてホンジュラス人教師 1 名による日本語講座開講
2020 年	3 月時点で、新型コロナウイルスの影響により、一時、全日本語教育機関が休講となったが、9 月時点で全機関がオンラインでの授業を開始した。その後、コロナ感染がおさまる過程で、各機関がそれぞれ対面授業を再開。
2023 年	UNAH にて、日本語が 2023 年 8 月に言語学部生を対象とした第二外国語科目として新設。